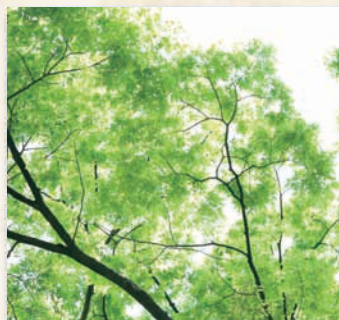




校長会



No.43

三重県小中学校長会 広報 第43号

●発行●三重県小中学校長会 津市桜橋2-142 三重県教育文化会館内 TEL 059-227-7011 E-mail info@mie-kochokai.com
●編集●三重県小中学校長会 広報委員会 ●印刷●光出版印刷株式会社 松阪市久保町 1885-1 TEL 0598-29-1234



学校のようす

本校は伊勢市の郊外に位置し、地域には昔からの農業地域と新興住宅地、大型商業店舗があります。校区の小中学校は一校で、生徒は素朴で互いのことをよく知っている反面、人間関係は固定化しがちです。そこで、生徒や教職員の個性が生き、学ぶ喜びに溢れる学校づくりを行うことで、本校に関わる人から信頼され、明日も行きたいと思われる学校を目指しています。

常によりよくありたいと努力する生徒

本校の現状を踏まえ、目指す生徒像をこのように設定しました。時間に追われ毎日を送る生徒たちに、よりよくありたいという思いが一人ひとりの心の中に潜んでいることに気づかせ、次のような力を育成したいと考えています。

- ◎自分のよさに気づき、目標に向かい前向きに取り組める力
- ◎他人のよさを認め、ともに支えあいともに励ましあえる力
- ◎意欲を持って学習に取り組み、継続して努力できる力

個に応じたきめ細やかな指導体制の確立

生徒が安全・安心な学校生活を送れるように、保護者や関係機関と連携した生徒指導体制を整えています。校区の保・幼・小・中で定期的に会議を持ち、各園・学校において成長過程を踏まえた支援を目指しています。授業では、生徒が学ぶ喜びを実感できるよう、学習規律や家庭での学習習慣の確立、ティームティーチング等の指導方法の工夫改善により基礎学力の定着に努めています。また、各種調査や定例のケース会議で生徒の見守りや情報交換を行い、いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応に組織的に取り組んでいます。特別な支援を必要とする生徒に対しては、特別支援教育コーディネーターを中心に福祉・療育・医療の関係機関や小学校、県立学校等と連携を図り、生涯を見通した支援についての保護者懇談やケース会議を開くなど体制が整ってききました。

勤務時間縮減と健康管理

毎年、様々な見直しを行っていますが業務量は増加傾向にあり、教職員の勤務時間縮減と健康管理が課題となってきました。今後は単に勤務時間の縮減を目指すのではなく、学校組織や業務の抜本的な見直しを図り、学校経営全体の課題として、職員全員で取り組んでいきたいと考えています。

私の学校づくり

『明日も行きたくなる学校』をめざして



伊勢市立御園中学校
校長 上島 章弘

会長挨拶

思いっきり子どもたちの教育に
打ち込める教育環境づくりを！



三重県小中学校長会

会 長 森 田 正 美

三重県小中学校長会は、平成十四年四月に、三重県小学校長会と三重県中学校長会を統合して新たな組織として結成されました。それぞれで培ってきた組織力を大切にし、小学校と中学校に共通の教育諸条件の整備に努め、成果を上げてきています。私は、その重みをしっかり受け止め、微力ではございますが、会長として力を尽くしてまいる所存でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、近頃、教職の道に就いた、まだ初々しかった頃の自分を思い出すことがあります。

私は、教員採用試験の面接で「採用されたらどんな学校に赴任したいですか？」と問われ、「生まれ

てからこの方、ずっと山間部の田舎で暮らしているの、海の見える学校に行きたいです。」と答えたところ、初任地は、四方八方を海に囲まれた鳥羽市の神島小学校でした。全校児童八十人ほどの小さな学校で、五年生十七名を担任しました。

寝食を忘れ、目の前の子どもに向き合って格闘していた毎日。少しでも分かりやすい授業をと、教材研究に没頭していた日々。それが、この子どもたちの『人としての成長』につながるのだと信じて疑わなかった若かりし頃……。

あれから三十有余年。私は今、一つの小学校を預かる校長です。私の学校にも、私の初任の頃と同じように、子どもたちに真正面

に立ち向かっている先生がいまいます。私は、「このような先生たちには、子どもに共感し、時には悩みながらも、思いっきり子どもたちの教育に打ち込んでほしい、そんな教育環境をつくっていきたい。」という思いで校長職を務めています。県内の校長先生方は、私と同じような思いをもってみえる方ばかりだと思います。

しかしながら、今日は課題山積で、私の若い頃のように、何でも取り組めた環境とは程遠いものを感じます。

とりわけ、全国的には、「学習指導要領改訂に向けた審議の本格化」や「道徳の教科化」、また、三重県においては、「全国学力・学習状況調査およびそれに関わる施策」「教職員育成のための人事評価制度の実施」「新しい職の設置」「土曜授業の実施」など、進捗する教育改革への対応に追われています。

教育に関わるこのような状況が、極めて速いスピードで変化する今だからこそ、校長自身が、自らの使命を自覚し、将来への展望を持ち、理想の実現へと邁進していくことが必要となります。

先ず、校長は、これからの時代を力強く生きていくことができる子どもたちを育てるという学校本来の役割をしっかりと自覚しなければなりません。そして、「時代がどんなに変わろうとも、学校教育

において変えてはいけない本質的なもの」と「その時代に応じて変えていかなければならないもの」という教育における「不易と流行」をしつかり見極め、これからの学校づくりを率先して進めていかなければなりません。

それ故、校長は、学校経営のスペシャリストであるとの認識を高くもって、今、何をいかに成すべきかという明確なビジョンを持ち、リーダーシップを発揮して、学校のグランドデザインを描くとともに、先生たちが、目の前の子どもたちの教育に責任を持って指導に当たることができる教育環境をしつかりつづけていく必要があります。

私は、このような取組を進めていくことが、子どもの学びの充実と保護者や地域住民の信頼を得ることにつながっていくと確信しています。

三重県小中学校長会には、新しい時代の要請にこたえるため、組織力を生かして「学校からの教育改革」を積極的に提言し、本県義務教育の、より一層の振興を図り、県民の信託に応えていかなければならないという使命があります。

「思いっきり子どもたちの教育に打ち込める教育環境づくり」を進めるため、会員の皆様をはじめ、志を一つにする関係諸機関・団体とともに、諸活動に取り組んでまいりますので、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

平成 28 年度 三重県小中学校長会 役員・監事及び事務局

◇会 長（兼小学校部会長）

森田 正美 【津市・養正小】

◇副会長（兼小学校副部会長）

西田 尚史 【松阪市・射和小】

濱田 嘉昭 【伊賀市・新居小】

◇幹 事（兼小学校幹事）

宇佐美好孝 【四日市市・桜台小】

小川 国彦 【鈴鹿市・加佐登小】

小野 礼子 【鳥羽市・弘道小】

◇副会長（兼中学校部会長）

鏡 仁治 【松阪市・嬉野中】

◇副会長（兼中学校副部会長）

川合陽一郎 【津市・橋北中】

北村 吉洋 【度会郡・大宮中】

◇幹 事（兼中学校幹事）

白木 俊行 【桑名市・光陵中】

西村 勉 【名張市・赤目中】

室谷 隆子 【熊野市・入鹿中】

◇監 事

梅本 秀明 【鈴鹿市・長太小】

森山 哲成 【名張市・桔梗が丘中】

《事務局》

◇局 長 中川 正生

◇次 長 大西 学

◇局 員 宮田 典子

委員 会 報 告

学校経営委員会

委員長 山 本 潔



四月二十八日の三重県小中学校長会総会の時、私は既に学校経営委員会への所属が決まっていたが、前委員長の長井一哉校長からの報告を、「本当に大変な仕事をしてもらっていたのだな。」と失礼ながら軽い気持ちで聞いていました。

ところが、三週間後の五月十九日の第一回委員会で委員長を務めさせていただくこととなり心境は一変し、責任の重さを日々実感しているところです。

委員会では、配布資料や意見集約の方法について、委員の方々から各都市の状況を踏まえた活発な意見交換がなされ、大変心強く感じました。また、会議後に、三年前の県教頭会でお世話になった副委員長の小掠春行校長から、「また、山本さんといっしょに仕事することにになりましたね。」と声をかけていただき、ホッとしました。さて、当委員会の活動内容は、

皆様からいただきました三重県教育委員会の施策や予算等についての意見を集約し、学校経営を進める上で必要となる学校への支援はどうあるべきかを「要望事項並びに解説」にまとめ、九月に三重県教育委員会事務局各課に対して要望活動を行うことです。

様々な教育課題が山積する中、教育活動の充実発展を図るために大変重要な役割であり、県下五二名の会員の皆様からの要望をもとに、役員並びに事務局の方々にご指導を仰ぎながら要望事項を精査し、要望書の信頼性を高め、要望活動を行っていきます。そして、当委員会の活動が、「信頼される学校づくり」や「地域とともにある学校づくり」等につながる取組となりますよう、皆様のご理解・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

進路指導委員会

委員長 西 浦 昌 宏



当委員会ではこれまで県立高校の入学選抜制度について前後期

制の一本化をはじめとする抜本的な改革も含め様々議論を重ねてきました。本年度はその経過も受け止めつつ、県内各地域の状況に合った柔軟な姿勢も大切にしながら、改めて生徒や保護者の立場に立つた現行制度の課題改善に向けて意見交換をさらに進めていきたいと考えています。以下に今年度の活動方針と活動計画を示します。

一、活動方針

(1) 児童生徒理解を深め、個性の伸長を図り、自己実現を目指す進路指導を推進します。

(2) 県内各小中学校間の情報交換に努めます。

(3) 三重県教育委員会・三重県高等学校長協会・三重県私学協会・関係機関と協議し、現行入学選抜の課題や入学選抜制度、高校活性化問題等の改善に努めます。

(4) キャリア教育についての研修に努めます。

二、活動計画

(1) 五月十七日(火)

① 進路指導に関わる要望について

② 現行入学選抜制度の課題

(2) 六月十六日(木)

① 進路指導に関わる要望のまとめ

② 現行選抜制度の具体的な検証

(3) 七月二十六日(火)

① 要望書への県教委回答と質疑

② 現行選抜制度の具体的な検証

(4) 九月十三日(火)

① 現行選抜制度の具体的な検証

(5) 十月二十五日(火)

① キャリア教育の視点に立つ研修

平成 28 年度 三重県小中学校長会・理事一覧

郡市名	小学校理事		中学校理事	
	名前	所属校	名前	所属校
桑名市・桑名郡	近藤みどり	多度東小	箕浦 幸弘	光風中
いなべ市・員弁郡	田中 成典	十社小	森 憲治	大安中
四日市市	平田 佐康	富洲原小	小林 誠	西笹川中
三重郡	坂本 豊治	朝日小	吉本 齊	八風中
鈴鹿市	弓削 弘嗣	牧田小	平子 賢一	千代崎中
亀山市	越智 亨	加太小	川口 謙次	亀山中
津 市	落合 正史	敬和小	山本 潔	美杉中
松阪市	伊藤 卓哉	第四小	深見 充弘	殿町中
多気郡	小掠 春行	下御糸小	三石 幸宏	明和中
伊勢市	山口 茂樹	修道小	中村 泰彦	港中
度会郡	掛橋 純	下外城田小	森本 明宏	度会中
鳥羽市	藤井 英一	菅島小	濱地 圭司	長岡中
志摩市	山際 嘉登	甲賀小	舟戸 宏一	磯部中
伊賀市	古城 正美	上野西小	廣岡 昭貴	緑ヶ丘中
名張市	福村 俊夫	美旗小	西山 尚吾	南中
尾鷲市	内山 善嗣	尾鷲小	畑中 丈生	三船中
北牟婁郡	加藤 浩	三浦小		
熊野市	奥村 実朗	金山小	川崎奈保美	飛鳥中
南牟婁郡	前川 直毅	尾呂志学園小		

平成 28 年度 研 究 大 会

★第53回三重県小学校長教育研究大会

- ◇日時 平成28年7月28日(木) 午前：全体会 午後：分科会
- ◇会場 全体会 三重県総合文化センター 中ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場
三重県総合博物館レクチャールーム
- ◇研究主題 「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く
日本人の育成を目指す小学校教育の推進」
一夢の実現に向けて主体的・協働的に学び、共に
未来を創ろうとする子どもを育む学校経営の推進一
- ◇講演会 講師：CBC テレビ アナウンサー 久野 誠
演題：『より良いコミュニケーションのために』

★第53回三重県中学校長研究大会

- ◇日時 平成28年8月19日(金) 午前：全体会 午後：分科会
- ◇会場 全体会 三重県男女共同参画センター 多目的ホール
分科会 三重県総合文化センター内各会場
三重県総合博物館レクチャールーム
- ◇研究主題 「社会を生き抜く力を身に付け、
未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」
- ◇講演会 講師：東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻
疫学保健学講座社会予防疫学分野
教授 佐々木 敏
演題：『予防医学からみた食育の現状と未来
：その科学性、必要性、可能性』

- ② 現行選抜制度の具体的な検証
(6)十一月二十九日(火)

① 本年度活動の反省と課題

生徒指導委員会

委員長 舟 戸 宏 一



『邂逅』という言葉から

五月の第一回の生徒指導委員会に集まった今年度のメンバーを見て、『邂逅』という言葉を感じました。『邂逅』とは偶然のめぐり合いのことで、一回一回の出会いの大切さを意味します。偶然にもメンバーの半分が三年前に全国へき地複式教育研究会・三重大会の運営に当たったメンバーでした。このメンバーで仕事ができることは心強く、こんな機会をつくってくれた偶然に感謝したいと思います。学校現場では日々、いじめや不登校などの課題に取り組んでもらっていると思いますが、子どもたちにも心が揺れるような出会いがあれば、それは現状を変えるチャンスになると思います。様々な課題を抱えた子どもたちですが、「悪い子はいない、ただ寂しい子がいるだけ」という言葉が示すように、子どもたちの寂しさを埋めるのが必要です。その一

つがいい出会いだと思っています。『邂逅』という言葉は、出会いを通して子どもたちをつなぎ、自立を支援していくという生徒指導の基本を思い出す機会にもなりました。

今年度の活動方針

生徒指導上の課題は様々ですが、最近のスマホなどの普及は、子どもたちの生活にも入り込み、新たな課題を生んでいます。今年度も昨年度までの取組を引き継ぎ、ネットモラルに焦点を当てた取組を、学校、家庭、地域の連携の中で進めていきたいと思っています。十一月には実践交流会も予定していますので、各校での実践を交流することで、少しでも改善につながることをめざしたいと思います。今年度の活動方針は以下の通りです。

- ① ネットモラル等の課題解決に向けた支援のあり方の追及
- ② 地域、関係機関との連携を密にした安全・安心な学校づくり
- ③ 県内各校間の情報交換

特別委員会

委員長 深 見 充 弘



「考え実行していくために」

今学校では学力向上をはじめ課

題が山積しています。学校での課題は、様々な要素が絡み合い、教職員の地道な学習指導や生徒指導等に負うところが大きく、公式のような明快な解決策はありません。そのため、教職員個々の指導力をいかに向上させるか、予算も厳しい中、あるものをいかに活用し、児童生徒の能力向上につなげるか等、教職員が心を一つにして、工夫を凝らし取り組んでいかなければなりません。

また、人事評価制度を効果的に活用し、教職員それぞれの指導力・組織力の向上につなげていくため、課題等について検証し、改善に向けて議論していく必要があります。

これらを踏まえ、次のような活動方針・活動計画を策定し、課題解決に向け三重県教員委員会と話し合っていきたいと思っています。

一、活動方針

- (1) 子どもたちの学力向上をめざし、三重県教育委員会の施策の動向を注視するとともに、各市町教育委員会や各学校の取組を把握しながら議論を深め、課題を整理し、展望を含めた方向性を提言します。
- (2) 多岐にわたる校長の勤務状況を把握し、多忙な勤務実態における健康管理の不安や退職後も含めた処遇面の課題等について検討し、改善に向けた方向性を提言します。

二、活動計画

- (1) 学力向上部会では、「ワークシー

ト」等を活用した取組や各市町教委や学校での取組の状況を把握しながら、学力向上に向けたよりよい施策等の在り方について、県教育委員会と話し合います。

(2) 処遇改善部会では、人事評価制度の実施をうけ、教職員の資質向上等につながるよりよい制度とするため、課題等を整理し、改善に向けて県教育委員会と話し合います。

広報委員会

委員長 中 村 泰 彦



今年度は、伊勢志摩サミットの関連行事に始まり、県内各地で国際的な取組が行われました。サミットも成功裏に幕を閉じ、平穏な学校生活に戻っていると思います。

去る四月二十一日に第一回広報委員会を開催し、昨年度の活動成果と課題をもとに、本年度の活動方針・活動計画について協議し、以下のように決定しました。

一、活動方針

- (1) 広報活動とおして、会員相互の連携意識の更なる向上を図る。
- (2) 会員の声を幅広く掲載するとともに、写真を充実させ、親しめる紙面づくりに努める。

- (3) 年三回発行し、情報提供に努める。

二、活動計画

- (1) 七月、十二月、三月に会報を発行する。
- (2) 編集内容は、①「私の学校づくり」②「今日の課題の克服に向けて」③「特別寄稿」④「新任校長の声」⑤「ちょっといい話」⑥「あの時、あの人」⑦「私の薦める一冊」⑧「随想」⑨「研究大会参加報告」⑩「地区校長会だより」⑪「本部役員だより」とする。
- (3) 紙面構成は、八面・カラー印刷。
- (4) 会員への執筆依頼は、当該地区の理事を通じて行う。

私たち広報委員会は、日ごろから校内外の様々な課題と向き合い奔走されておられる校長先生方に、紙面を通じて一息ついていただくとともに、新たな教育課題に共に立ち向かっていけるよう、情報交換の場として各校の実践や郡市校長会の活動の様子などをお伝えし、三重県小中学校長会の連帯感を深めて参りたいと考えております。原稿執筆していただきます校長先生をはじめ、皆様のご協力をお願いいたします。

● 原稿募集

会員の皆様の投稿をお待ちしています。なお、内容・字数等につきましては事務局へお問い合わせ下さい。「校長会みえ」について、「意見・ご要望があればお聞かせ下さい。」

三重県小中学校長会 広報委員会

特別寄稿

子どもたちの希望と

未来のために



三重県教育委員会

副教育長 木 平 芳 定

(PDCAサイクルを意識した学
校運営)

平成二十八年度も三か月余りが経過しましたが、各学校の取組状況はいかがでしょうか。年度当初の計画どおり進んでいる部分もあるでしょうし、予期せぬ課題に直面しているものもあるのではないのでしょうか。

校長先生方もこの三か月余りを振り返り、色々と思いを巡らせておられると思います。組織運営で大切なことは、目標を組織全体で共有し、その実践状況を途中で確認して、状況によっては必要な改善を加え、目標達成のための次の行動につなげることです。どのような組織でも、目標を立てっぱなし、あるいは取り組みっぱなしになりがちです。校長先生方には、PDCAサイクルを意識した学校運営にリーダーシップを発揮して

欲しいと思います。

併せて、教育活動を担う教職員一人ひとりへの目配せ、育成にも留意して頂ければと思います。最近、特に小学校において新規採用者が増えています。面談や授業観察、普段の会話など様々な機会を捉えて、声掛け、励まし、助言をお願いします。

(家庭・地域との連携)

子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、教育課題も多岐にわたり、学校に求められる役割や期待も変わってきています。このような状況に適切に適切な学校運営を進めていくには、保護者や地域からの信頼を更に深める必要があります。そのためには、学校・家庭・地域の情報共有が不可欠だと思います。そのことで、家庭や地域からの協力も得られ、一体となった取組につながるのではない

でしょうか。県教育委員会でも、「地域に開かれ信頼される学校づくり」の施策に沿って、子どもたちの豊かな育ちを支える取組を進めていきます。

(三重県教育ビジョン)

さて、表題の「子どもたちの希望と未来のために」ですが、これは三月に策定した「三重県教育ビジョン」の副題です。

このビジョンでは、その基本理念として「三重の教育宣言」を掲げています。その中で、「子どもたちは、一人ひとりがかけがえない大切な存在であり、誰もが無限の可能性を持っています。将来、地域で輝き、世界で活躍する子どもたちの姿は、私たちの「希望」であり「未来」です。」と示しています。

正に、「子どもたちの希望と未来のために」という、県民・保護者・教育関係者の熱い思いを込めて作られたものです。三重の子どもたちが自らの可能性を信じ、志を持って夢を実現できるよう、市町教育委員会との連携を深め、各学校の取組を支援していきたいと考えています。小中学校長会の皆さんのご理解とご協力を得て、ビジョンの実現に全力で取り組みます。

(おわりに)

最後になりますが、三重県小中学校長会の益々のご発展と皆様の一層のご活躍を祈念いたします。

平成27年度末 退職校長感謝の集い

平成 27 年度末
退職校長感謝の集い

平成 28 年 4 月 9 日 (土) プラザ洞津



平成27年度末 退職校長感謝の集い



新任校長の声

一隅を照らす

津市立大三小学校
校長 平 田 裕 子



四月に入ったある日、一枚の葉書が我が家に届きました。宛名を見ると、昔、大変お世話になった上司の方からです。「昇任おめでとう」という言葉に続いて「一隅を照らす」と大きく書かれています。不勉強な私には、その言葉の意味すらわからず、早速インターネットで調べてみることにしました。この言葉は最澄が著した『山家学生式』の冒頭部分に記載されているもので「一隅を照らす此すなわち国宝なり」と書かれているそうです。諸説はあるものの「自分が与えられた場所での自分の持て

る力を発揮し、精一杯努力をしてみんなの役に立ちなさい」という意味だということがわかりました。実際、今までの長い教員生活の中で一度も勤務したことがない地域への赴任。出会う方々、見るもの、聞くものすべてが新鮮に感じる一方で不安な気持ちで一杯になっていた私。それを見透かすように「この学校に赴任しようが、あなたのやることは決まっています。子どもたちのためにがんばりなさい。」と叱咤激励してくださっているのだと胸が熱くなりました。

大三小学校は自然豊かで人も地域も温かなところです。校庭の周りの森からはウグイスの鳴き声も聞こえ、自然豊かな地域ならではの話題には事欠きません。

ある日のこと、「先生、袋ください。」窓から聞こえる突然の声。「何を入りたいの。」と尋ねる私の目の前に「これが入る袋をください。」と小さな竹の子を大事そうに握りしめる子どもの手が差し

出されました。驚きと共に校地内に生えている竹の子を休み時間に懸命に掘る子ども姿を思い浮かべ、思わず笑ってしまいました。

これから訪れる季節の中で子どもたちの小さな手の中にどんなものが握りしめられていくのかを楽しみにしながら、一隅を照らす人となるべく努力をしていきたいと思っています。

山へ向かって

松阪市立阿坂小学校
校長 水 本 恵 美



毎朝、堀坂山、観音岳、日川富士、鉢ヶ峰、そして校区にある国指定文化財の白米城へと連なる山並みに向かって車を走らせ通勤をしている。この景色は、三十三年前現在の阿坂小学校の隣の校区の学校へ通勤していた時にも毎朝見えていた景色であり、四季で移り変わる山並みが美しく、松阪で大好きな景色である。それらの山々の麓にある本校は、自然豊かで、史

跡や伝説など歴史の題材が豊富な地域で、子ども達は地域の方々にも見守られ健やかに育っている。五月に行われた全校での「田植え」は、三十五年以上も続いており、地域に支えられていることが実感できる行事である。毎年行っている、高学年はずいぶん慣れており、六年担任が、「一歩下がって、ならして、植えて。」のかけ声に合わせて手際よく進めていた。

学校の周りは田んぼに囲まれているが機械化も進み農作業に直接関わる経験は少なくなってきたと聞いている。地域の大切な産業である農業についての体験を重ねることは、「阿坂を知って阿坂を大切に思っしてほしいんや。」と語られた地域の方々の願いであると共に、「地域で生きる子ども」という阿坂小学校が掲げているめざす子ども像とも一致している。

「田植え」は縦割り班で行ったので、一年生にとっては、初めての全校での体験である。六年生は一年生の手を取り、苗を植える位置まで連れて行き、苗の持ち方、植え方を教えていた。「田植え」が終わってからは、その学年に合わせた感想をまとめた。様々な場面で、自分の言葉で思いを伝える活動に力を入れている。今年度の

授業研究について話し合いをしていると、この子どもたちがどの様な学び合いの姿を見せてくれるのだろうと思うとワクワクしてくる。さあ、明日の朝も、山に向かって車を走らせよう。

地域を愛し、愛される学校を目指して

伊賀市立城東中学校
校長 南 庸 善



伊賀市立城東中学校は校区再編による統廃合で八年前に開校した新しい学校です。五月になると辺り一面、田植えを終えた水田が広がるのどかな地域にあります。学校は私の自宅から五〇〇m程の距離にあり、水田の中の通学路で子どもたちの自転車の群れと出会い、元気なあいさつを交わし一日が始まります。開校当初は「こんな悪さをしていた」と、校区に住む私にも陰口が聞こえ、地域から好意的でない視線もありました。本校の教育活動の三つの柱は、「つながる」「わかる」「出あう」

です。前任の校長先生から成果や課題を引き継いだものの、新鮮な気持ちとは裏腹に実態の見えない不安を感じながら一学期のスタートを切りました。四月半ば、市民の方から自転車通学の状況について、切実な苦情のお手紙をいただきました。翌日から通学の実態を知る目的も兼ねて危険な交差点に立って、生徒への声かけを始めました。交差点には決まってボランティアの方が交通指導と見守りに立ってくれています。「どこそこのお店の子や、今日は表情が明るい」と話してくれます。毎日、何年も子どものことを見守ってくれている人がいるのです。また、学校運営協議会の役員会で、委員さんが、生徒の成長ぶりをききんととらえて話される姿に触れ、コミュニティ・スクールへの心配は吹き飛び、感謝の気持ちで一杯になりました。こうして若い学校が地域の方からさまざまに応援をいただきながら、校区に根付く学校に育ててもらっていることが見えてきました。

今、温もりのある地域に出会い直し、学校教育目標「地域を愛し、心豊かにたくましく生き抜く生徒の育成」を心から目指したいと感じています。

ちよつと いい話

いくつになっても 学ぶって楽しい

南伊勢町立南島西小学校

校長 玉丸 宏 二



私は小さい頃から、自然の中で活動することが大好きでした。春は、ワラビやゼンマイを採りに山の中へ。夏には近くの川で一日中鮎しゃくりをして過ごしました。秋は山へ行つてアケビを採ったり、栗を採ったりしていました。冬は山の方の田んぼやため池が凍っていたので、竹でスケートっぽいものを作り、靴に取り付けてスケートごっこをして遊んでいました。

時は流れて、還暦を間近に控えています。子どもの頃からの自然への思いは変わっていません。今でも川へ行ったり、山へ登った

りと自然を楽しんでいます。特に上高地へは年に何度も訪れることがあります。私にとって何度行っても感動のある大好きな場所です。

その上高地に、昨年はバードウォッチングに、今年はガイドツアーに行つて来ました。バードウォッチングは環境省の上高地ビジターセンターが行っているもので、徳沢まで野鳥を観察しながら歩いていくツアーです。今まであまり野鳥には興味がない私でしたが、それをきっかけに自宅の周りにやつて来る野鳥にも興味ができました。

また、今年はNPG上高地ナショナルパークガイドのガイドツアーに参加しました。当日は九時に河童橋近くにある五千尺ホテルの受付に集まり、二名のガイドの方と共に、徳沢まで三時間かけて、自然観察をしながらゆっくり歩きまわりました。今まで何度となく歩いた道ですが、たくさん新しい発見がありました。植物・野鳥・野生動物等の名前や習性を教えてもらいながらの歩行で、新しい知識を得ることは、とても楽しいことだと改めて実感しました。五月中旬から下旬には、上高地から徳沢までの道の両側に、可憐な純白のニリンソウが一面に咲き誇っていました。学校現場ではとても忙しい時期ではありますが、みなさんも心

のやすらぎを求めて、上高地を訪れてみてはいかがでしょうか。

伊勢志摩サミット

鳥羽市立笠志中学校

校長 石野 國 昭



志摩市における伊勢志摩サミットが無事に終了しました。

志摩市から鳥羽市まで通勤する途中、日が進むにつれて増加する警察車両に出会い、ナンバープレートを確認できただけで北は北海道から南は鹿児島まで、ほぼ全国から警備に駆けつけていました。

警備も初期の頃には、志摩市内の各家庭を訪問し、家族構成確認や不審者等を見つけた時の通報依頼などを行っていました。

サミット開催日が近づいてくると何度か検問に出会い、その度に丁寧に対応してくれる警察官の笑顔が印象的で、歩いている人たちにもいつも元気に挨拶をしてくださいました。警察官の真摯に業務に取り組む姿に心打たれることもしばしばで、「おつかれさまです。」と

いう言葉が自然と出てきました。

小さな子どもを連れてパトカーを見ていた知人は、ちょうど業務を終えた警察官に近くで見せてもらって説明をもらい、子どもも大喜びでした。

ある小さな旅館には多くの警察官が宿泊し、旅館の前で集まりランニングしたり運動したりする姿をよく見かけました。サミットが終わり、約三ヶ月も滞在していた方々との別れは、きつととてもさみしかったに違いありません。

志摩町和具の間崎島住民は船で賢島まで行き阿児町鶴方などで買い物をするがありますが、サミット開催直前には賢島への立ち入りが規制され船着き場が変わったため、社会福祉協議会が買い物ツアーを企画し、住民は志摩町和具のスーパーなどで食料品などの買い物をすませることができました。特に高齢者の方にとって、たいへんありがたいことであつたと思います。

英語通訳の人、花を植える人、看板をつくる人、宿泊業者の人、弁当をつくる人など、数え切れない程の小さな一人一人の力が結集して大きな力となり成功につながったと感じられる伊勢志摩サミットでした。

「みなさん、おつかれさまでした。」

地区校長会だより

四日市市立小学校長会

本校長会は、「小学校教育の充実」と「校長の職務能力向上」などを活動方針に掲げ、毎月一回の定例会、役員会、拡大役員会を開き、和気藹々と、しかし互いに切磋琢磨しながら活動しています。

ブロック会での意見交換

本校長会の特徴は、これらの会議に加えて毎月一回開いているブロック会です。市内を地域ごとにAからEの五ブロックに分け、七校から九校が輪番の会場校に集まり、役員会・拡大役員会で提起された課題や、そのときそのときの様々な課題について討議しています。また、各学校で今起こっている問題や取り組みなどを常時情報交換し、それぞれの学校へ持ち帰って自校の教育活動に生かそうとしています。

ブロック会から定例会へ

三十八校が参加する定例会では、なかなか個人の意見を述べることに遠慮もありますが、ブロック会ではざつくばらんに自分の考えを出すことができます。そうしてブロック会で出た意見や考えはプ

ロック理事がとりまとめ、定例会で出し合い、ブロック同士の交流をするという形になっています。気づき↓課題↓対策

今、教育を取り巻いては課題が山積しています。

様々な課題への対応を考え実践するだけでなく、

①自校の状況を的確に捉える
②問題や気になることをブロック会で出し合う
③それをどういう課題として認識するかを明確にして討議する
④定例会で発表、交換し、校長会の考えとしてまとめる



こうしてまとめたその考えを、校長会からの提案や施策として、またこの話し合いの過程を通じて、冒頭にあげた「小学校教育の充実」と「職務能力の向上」が実現することをめざしています。

志摩市中学校長会

この春の志摩市の光景

本来なら「志摩市は、豊かな自然に囲まれ、海の幸、山の幸に恵まれた人口五万人ほどの市で……」といった紹介から入るのでしようが、この春はいつもと違う光景が志摩市にはありました。五月に開催された伊勢志摩サミットにより、道路の舗装や沿道の木々の伐採など、日に日に市内の環境の整備が進み、全国から来てくれたたくさんの警察官や関係の車両を、市内のいたるところで見ることができました。志摩市でも人口減少が進む中、道路工事や警察関係者による一時的な人口増加ではあります、改めて人が多いだけで、町の活気は違うものだと思います。志摩市の実感させられました。志摩市の中学校もここ数年で統廃合が進み、十一校あった中学校が七校となりました。これからは小学校の統合が本格化し、学校数はさら

に激減していきます。

小中学校会としての活動の様子

学校数が減っていく中、志摩市の校長会も小学校長会と中学校長会を一本化して、情報の共有と取組の連携を図ることで、小中学校が協力して志摩市の教育を進めていく体制をつくってきました。校長会は毎月行われ、教育委員会の所管事項や各関係団体からの報告があり、情報共有の大事な機会となっています。また各校長は、市、各組織内での活動を支援するとともに、校長会にも情報を提供し、各組織と校長会をつなぐ役割を担っています。さらに各校での最近の課題を出し合うことで、一つの学校だけの問題で終わらせるのではなく、市全体の共通の課題として、現状や対策について話し合う機会もつくっています。今後は、情報共有だけに終わらず、具体的な取組につなげていけるような校長会にしたいと思っています。



編集後記

広報委員会では、今年度も三重県小中学校長会広報「みえを年三回の計画で発行させていただき運びとなりました。新年度が始まり慌ただしい中、第43号の執筆を依頼させていただいた先生方には、快くお引き受けいただき誠にありがとうございました。

さて、学習指導要領の改訂に向け、昨年八月、中央教育審議会教育課程企画特別部会から論点整理が示されました。これからの時代を生きる子どもたちに育成すべき資質・能力が三つの柱で整理され、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）の重要性が説かれています。また、学習指導要領等に基づきどのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施・評価し改善していくのかという「カリキュラム・マネジメント」の確立も求められています。

三重県小中学校長会では、本県教育の充実・発展に向け、毎年、教育研究大会を開催し、研究と実践を積み重ねて多くの成果を収めてきました。今年度は、研究主題を「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」（小学校部会）、「社会を生き抜く力を身に付け、未来を切り拓く日本人を育てる中学校教育」（中学校部会）に据え、学習指導要領の改訂も視野に教育内容や教育条件整備等に関して熱い議論がなされることを思います。

広報委員会では、今後の教育の動向を踏まえて最新の情報の提供に努めるとともに、会員相互の交流を広げ、親しめる紙面づくりをめざしてまいりますのでご支援とご協力をよろしくお願いいたします。